第 45 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	春日ゼミⅡ	チーム名	英雄 by KD
タイトル	ICT の経済　- 移動体通信産業 -		
テーマ群	a）理論・情報　e）産業・企業		
メンバー	宮原　慧介、柳　成桂、島田　智之、大前　椋介、柏原　裕依、武田　慎也、萩原　稚葉、山口　哲郎		
研究計画内容	21 世紀の世界経済や日本経済は情報や ICT の発展とともに歩んできた。特に近年では移動体通信が大きな役割を担っている。日本国内においてこれらのサービスを提供するのは NTT ドコモ、KDDI、ソフトバンクの 3 社が中心である。移動体通信市場では今日、国内総契約数が日本の人口を 3000 万件ほど上回るほど隆盛を誇っている一方で、その伸びは頭打ちになる傾向にある。一方、日本の国内人口は既にピークを越え今後は減少トレンドとなることが予想されており、少子高齢化が進行するという複雑な社会構造を抱えている。このような状況を鑑みると、移動体通信契約数もこれから先伸び続けるとは考え難い。同時に、スマートフォンの急速な普及は国内における ARPU(1 契約当たり通信料金)を年々引き下げる結果となっている。つまり、単に契約数増加を求めた経営戦略では市場内での他社とのシェアの奪い合いになるだけであり、加えて通信料金も下落トレンドであるが故に、市場全体の成長が望めないのである。 このように複雑な国内市場で、通信各社はどのようにして利益を追求していくのだろうか。また、消費者側から見えにくいとされる複雑な寡占的市場構造や料金体系はいったいどのような実態なのだろうか。移動体通信市場や通信料金はこれまでどのように推移し、今後はどのようなトレンドをとっていくと考えられるのだろうか。 IoT や Fintech など、ありとあらゆるものがネットにつながりはじめ、従来存在しなかったサービスが登場しつつある今日、我々にとって最も身近な移動体通信企業はどのような戦略を取り、企業としての利益最大化を押し進めていくのか。そして移動体通信産業は今後どのような方向性を打ち出し、どのような展望を描いていくのかについて考察していきたい。		